



# 東京の産業と教育

No. 163

## 会 の 目 的

本会は産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

## 専門高校における課題解決的な学習について

東京都教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当）

久保田 哲司



これからの予測困難な時代において、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を實現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められています。

これらの社会からの要請に応えるべく、生徒が将来自らの力を最大限発揮できるよう、都立専門高校においては、技術の習得にとどまらず、様々な問題や課題に向き合っていく力の育成に向けて取り組んでいます。

ビジネス科に改編した都立商業高校では、起業等に関する課題の発見と解決を図る学習を通して、マーケティングに関わる専門的な知識と技術を習得し、ビジネスについて創造的に考える能力と態度を育成するため、東京都独自の科目「ビジネスアイデア」を設置し、生徒がビジネスを実地に学べるよう、実践的な学習に取り組んでいます。また、東京都商業教育研究会と連携して、「東京プランニングラボ」を開催し、各校で中心となる生徒が集い、企業の方々からビジネスの専門知識を学ぶとともに、ビジネスプランを提案する取組を継続して実施しています。

Society 5.0 を支える工業高校の実現に向けた戦略プロジェクトを進める都立工業高校では、生徒自らが問題点や課題を発見し、解決方法を模索することなどにより、ものづくりのプロセスを学ぶ課題解決型学習（PBL: Project Based Learning）に取り組んでいます。また、ものづくりなどに高い意欲や志のある生徒を募り、企業や大学の施設等を活用した先端的な学習を行う「東京未来ファクトリー」を実施し、生徒の好奇心や意欲を更に向上させる研究活動や学校間交流活動を推進しています。

都立農業高校では、「プロジェクト学習」の強化を図るとともに、生産物の安全性を高めるだけでなく、企業の支援を受けて、加工や販売に当たった価値付けについて考えることや、市と連携協定を締結し、小・中学生や市民の方々とともに地域資源を積極的に活用して地域振興に取り組むなどしています。

都教育委員会は、各校のこれらの取組がより実践的・体験的なものとなるよう、外部人材の活用やプログラムの開発等、社会の力の活用を支援するとともに、専門高校の生徒の取組や専門高校の魅力の小・中学生や企業等に幅広く発信しています。

## 会報第163号のコンテンツ

1p：巻頭言 2～3p：実践報告 4p：中学生・高校生からのメッセージ  
5p：卒業生からのメッセージ 6～7p：産業界からのメッセージ  
8p：産学根懇談会・作文コンクール・教育功労者表彰の報告、事務局から

## 【実践報告】

# 主体的・対話的な商業教育 ～令和4年度東京都生徒商業研究発表大会最優秀賞を受賞して～

東京都立第五商業高等学校 主幹教諭 影山 伸

## 1 はじめに

本校は、創立81年目を迎える多摩地域唯一の伝統と実績を誇る商業高校である。企業、近隣の大学、NPO法人等と連携して、発展的な授業に取り組んでおり、東京都においては、ビジネス科のリーディング校としての役割を担っている。

## 2 生徒商業研究発表大会～最優秀賞を受賞して

令和4年8月16日、本校において令和4年度東京都生徒商業研究発表大会が開催された。この大会の目的とは「商業を学ぶ生徒が商業に関する課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動のなかで、生徒の問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通して、生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する」である。今回、本校では2年生4名が出場し、「KUNITACHIを満開に」～桜でつなげる地域マーケティング～というテーマで地域の商業活動及び産業経済に関する調査研究をし、最優秀賞を受賞した。

## 3 募集から発表まで

学年集会で募集したところ2年生4名が立候補し、生徒自らテーマ決め、報告書の作成、プレゼンテーション資料の制作を主体的に準備させた。また、生徒同士の討論を重ね、自らの考えを広げ深める対話的な学びになるよう心がけて指導した。プレゼンについては指導したが、プレゼン以外はアドバイス程度にとどめた。



＜発表までの経緯と生徒の主体的研究活動＞

### ①本校の標語をテーマに

本校の標語は「めざせ！地域貢献No.1 地域密着型ビジネス教育の推進」である。生徒たちはヒト・モノ・カネを「地域」に呼び込み、地域活性化のために研究を始めた。

### ②研究仮説

国立市の地域資源である桜を活用する地域マーケティングを行うことで、幅広い人々をつなぎ、地域活性化に貢献することができる。

### ③アンケートの実施

本校の1, 2年生全員約400名を対象とした。

### ④桜をモチーフとした商品開発

国立の地域ボランティアである桜守の話を聞く機会があり、桜が印象に残り、国立の地域資源としての「桜」を活用した商品開発を試みた。※商品はスマートフォンケース

### ⑤商品名の決定

限定ブランド 『Cinq petal (サンクペタル)』  
Cinqとはフランス語で5つ、petalは英語で花びらを意味し、桜の花びらが5つであることと第五商業高校の五を組み合わせせたブランド名にした。

### ⑥研究報告書の作成

表紙・裏表紙を含め10ページを事務局に郵送

### ⑦研究発表の工夫と練習

発表上の態度、資料の掲示、資料の説明

## 4 大会を終えて見えた課題と展望

・コロナ禍であるため、研究時間が短く事業計画発表会になり、商品開発ができなかった。アンケート対象が自校の生徒限定になり、地域住民や保護者に広げられず、対話的な学びが不十分となった。仮説の証明・検証に明確な根拠を示せなかった。

・今後の展望としては、生徒の活動を通して、国立の魅力さをさらに発信し、地域と学校がより連携し地域貢献できるよう指導していきたい。

## 5 これからの商業教育

新採時には東京都には20校以上の商業科があったが、現在、商業科（ビジネス科）が設置されているのはわずか6校である。ロンドン、ニューヨークと並び世界の3大商業都市である東京の商業高校で教えることが誇りであった。昔も今も今後も高校での商業教育は、我が国の企業の成長につなげることが不可欠であり、生徒が主体的対話的に行動して知識を蓄えさせる学びを指導すべきである。38年間商業教育に携わり、東京都並びに全国の商業科の先生方に大変お世話になりました。感謝申し上げます。

## 【実践報告】

### 企業と連携した商品開発

#### ～ 「ちゅらタワー」 ができるまで ～

東京都立橋高等学校 教諭 飯田 保明



#### 1 はじめに

本校は、平成 19 年に都立向島工業高校と都立向島商業高校を発展的に統合して誕生した、「ものづくりから流通・販売まで」を総合的かつ実践的に学ぶ、全国的にも数少ない産業高校である。従来の工業・商業という枠を越えて、生徒、保護者のニーズに応え、進学にも、就職にも対応できる「幅広い専門的な学び」を実現する専門高校として、社会で活躍する人材の育成を目指している。

#### 2 商品開発への取り組み

最初に 1 学年で学ぶ「起業家精神と職業生活」の授業において、東京スカイツリー駅前「おきまろ」（沖縄料理店）と連携した取組を実施した。店舗改装リニューアルオープンにつき、東京の地元の若い世代の方より新メニューのアイデアを募り、商品化してお店で販売したいという経営者の要望によって、観光案内ビデオやお店のプロモーションビデオを鑑賞してアンケートで答えた。具体的な案が出れば、その後、商品化・販売したいということ。また、新メニューができるまでのドキュメンタリーを撮ることで話題性と、販売促進を目指した。

本校は当時、修学旅行で沖縄方面を予定しており、観光案内ビデオやお店のプロモーションビデオを鑑賞することは、生徒たちにとって興味をもってアンケートを答えるきっかけとなった。また、本校は、ものづくりから流通・販売までを学ぶ日本初の産業科高校として、総合的に学び、産業界で活躍できる人材の育成を目標としており、商品計画から販売までを学習できる好機となった。

#### 3 企業と連携した商品開発

「おきまろ」とは何か？「まろ」という言葉は海を意味し、沖縄の海をイメージしている。お店は、墨田区内にあり、とうきょうスカイツリー駅より徒歩 1 分という場所にある。7 年前より東京への出店を行い、現在は店舗改装を終えている。その経営者の方の話では、地方の良いところ、地方創生を目標に、沖縄とのつながりを飲食店を通じて行い、東京と沖縄との融合を考えていた。また、その他に沖縄那覇市でも 1 店舗経営し、WEB を通じて観光業・プロモーションビデオ動画の作成も行っている。

今回、店舗改装リニューアルオープンにつき、東京の地元の若い世代の方より新メニューのアイデアを募り、商品化してお店で販売したいという経営者の要望を受け、観光案内ビデオやお店のプロモーションビデオを鑑賞し開発を行った。

#### 【企業からの条件】

- ・沖縄は、気にしなくてもよい。
- ・既存する商品のトッピングでもよい。
- ・アイス系メニューもあり。
- ・具体的な案が出れば商品化・販売したい。
- ・完成するまでのドキュメンタリーを撮る。

その後、「おきまろ」と生徒中心に商品の試作・検討を幾度となく学校と店舗にて行い、クリスマスにあわせて販売することが出来た。また、本校生徒も販売実習を行った。

#### ★製品名：「ちゅらタワー」

沖縄と墨田区の魅力をコンセプトとしたデザートで、3 種類のスイーツを重ねると、イルミネーションで飾られたスカイツリーをイメージするように工夫がされている。



#### 4 まとめ

今回の商品開発を通して、ものづくりとビジネスを実践し体験することが出来た。生徒たちにとって新しい発想による新しい産業の実施への自信につながったと感じている。今後は次の産業学習・研究に向けて、SDGs の取組として廃棄物利用の商品開発・販売等を計画している。





## 在校生からのメッセージ INFINITY

東京都立葛飾総合高等学校  
生活アート系列食物専攻 2年 浦浜 叶実

私は現在、葛飾総合高校で学んでいます。この高校に入学した理由は2つあり、総合学科であることと生徒が主体的に活動していることです。

まず、総合学科であることについてですが、普通科と専門学科の良いところを合わせたものが総合学科です。生徒全員が受ける必修科目とは別に、私たちは自分の将来に向けた選択科目を自分たちで選んで学んでいます。一人ひとりにあった時間割が作成でき、自分の興味のある科目を学べるので、たくさんの経験ができていますと感じます。私は将来、パティシエを目指しており、生活アート系列の食物専攻で学んでいます。主専攻科目の『フードデザイン』では、食に関しての栄養素や身体に与える影響を学ぶ座学とあわせて、調理実習を通して実技も身に付けています。

次に、生徒が主体的に活動していることについてです。葛総では、様々な行事を生徒が主体となって行っています。体育祭では、体育委員の生徒が中心となって企画から運営（競技中の審判や準備・片付けなど）を行っています。生徒が行う実況アナウンスや競技中に流れる曲はとても盛り上がります。また、中学生とその保護者の方にお越しいただく機会である学校

見学会などでは、私も所属する有志生徒の「広報ガイド」が中心となって学校生活についての紹介を行っています。発表内容は毎回生徒が考えており、私たちが実際に学校生活の中で感じる葛総の良さを伝えられるように活動しています。このように、たくさんの人とコミュニケーションをとることのできる機会や責任感をもって活動することの大切さを学ぶ機会が多くあります。

私は、葛飾総合高校での学校生活を通して知識だけでなくコミュニケーション力や責任感などが身に付いたと感じます。これらを将来に活かしていきたいです。



## 在校生からのメッセージ INFINITY

大田区立大森第八中学校  
2年 渡辺 咲希

令和4年度「大田区ものづくり教育・学習フォーラム」ものづくり競技会のソーイング部門「1mの布から作るオリジナル Bag」で優秀賞をいただきました渡辺咲希です。

この作品は、勉強をしに行く際に、教科書などがバッグから出てしまう不安があり、ふたをつけてみました。ふたにはボタンを付け、物が入れるようにしました。また、その中に、マスクを入れることができ、清潔に保管できるようにしました。

競技会に向けて、たくさん練習しました。特にバッグのふたの端につけたバイアステープを縫うのは難しかったです。バイアステープが布と合わなかったり、ふたのカーブに沿って縫えていなかったりと、一番難しい作業でした。でも、上手く縫えるまで何度も何度も練習しました。その練習のおかげで本番では、今



までやってきた中で一番上手く縫うことができました。綺麗な縫い目を見た瞬間、本当に嬉しくて、たくさん練習してきてよかったと心から思いました。

私はハンドメイド部に所属し、大会に向けての練習の他、ボックスティッシュケースなど様々な物を作っています。夏休みは、昼食作りを行っています。いわしの蒲焼きなども料理しました。みんなで作る昼食はとても美味しいです。

このような活動をしている中、後期から部長を務めることになりました。みんなをまとめ、責任をもって自分なりに頑張っていこうと思います。



## 卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立園芸高等学校 令和元年度卒業  
株式会社平田牧場 平牧工房 製造一課 野本 弥宙

現在私は園芸高校で学んだ知識を活かし、山形県にある平牧工房で主にハムやベーコン、生ハムを製造しています。

「高校からは自分の好きなことを学びたい」と思い、食べることが好きだった私は園芸高校に入学しました。園芸高校は実習が多く、座学で学んだことを活かし実習で技術を習得していきます。そのため、インプットとアウトプットを短いスパンで繰り返していくことにより、効率的に「食」に関する基本的な知識や技術を身につけることが出来たと感じました。

また、食品科にも「農業と環境」という畑の授業があります。その授業での体験が、料理や加工品だけでなく使う食材にも興味を持つきっかけとなり、私は山形の農林大学校への進学を決めました。

高校2年からは調理コースを選択し、ダブルスクール制度を活用して調理師専門学校にも通いました。高校と専門学校、両方の授業やテストを同時にこな

すのは体力的・精神的にとっても大変でした。しかし、そのおかげで調理師の免許だけでなく両立させるための計画性など、その経験によって得られたことは社会人になった今でも役に立っています。

園芸高校は思い出だけでなく、自分が将来何をしたいかの「きっかけ」を得られる学校だと思います。



## 卒業生からのメッセージ BEYOND

東京実業高等学校 平成30年度卒業  
千葉工業大学 工学部機械工学科 宮崎 颯真

私には、幼少の頃から「将来は鉄道の仕事をしたい」という夢がありました。その夢を実現すべく専門教科を学べる高校を探した結果、母校である東京実業高等学校にたどり着きました。東京実業高等学校内には私にとって魅力的な専門学科が2つ存在しており、学校説明会に参加するまで「電気科」・「機械科」どちらの道に進めばいいのかとても悩みました。「電気科」では、「第二種電気工事士」の資格を取得したいと考えていました。また「機械科」では、鉄道に携わる上で多くの技術を習得できると考えていました。そして迎えた学校説明会では、自分でも驚くほど即決で「機械科」を選択することができました。なぜなら、「第二種電気工事士」の資格は「機



械科」でも取得できることが分かったからです。

「機械科」では「アーク溶接」等7種類の資格を取得することができました。また、国家資格でもある電気工事士については、「第二種電気工事士」に次いで「第一種電気工事士」も一度目の受験で合格することができました。「第一種電気工事士」については、「機械科」では初の合格者となり、先生方も一緒に喜んでくださったことが今でも忘れられない思い出となりました。全部で12種類もの資格を取得できたことが自分への自信に繋がり、大学でも「機械工学」を専攻し、機械についてさらに多くの知識を増やすことができました。また、大学では教職の資格取得も目指しています。

そして、卒業後は幼少の夢を叶えるべく、日本貨物鉄道への就職が決まりました。夢を見つけられた人も、まだ見つかっていない人も、色々なことにチャレンジしてみてください。その中には、まだ自分では気付いていない将来の可能性が詰まっているからです。



## 産業界からのメッセージ 「新会員企業の紹介」

松川電気株式会社 代表取締役 栗山 敬太  
〒124-0023 葛飾区東新小岩 3-16-6 TEL. 03-3691-8611

### 【会社の概要】

弊社は 1946 年に設立され、電気工事を祖業としその後、電気機器の製造も開始しました。

本社及び工場は、東京都葛飾区にあり、営業所は神奈川県川崎市と相模原市にあります。

電気工事部門では、自動車やフォークリフトなどの産業用車両の製造ラインに関するものを主体に工場設備全般の電気に関わることを施工しています。

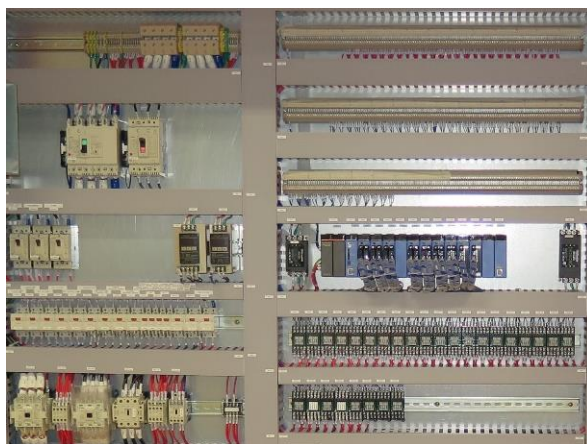
電気機器製造部門では、主に配電盤や制御盤を製作しています。

社員一人一人のスキルアップを計るために、社員教育には力を入れています。電気工事士等の資格取得を推奨し、それに掛かる時間や費用は、全額会社が負担しています。毎年、数名の社員が取得しています。

仕事は 若い人の力を発揮しやすいように、明るい職場環境の構築を目指しています。

### 【メッセージ】

電気の役割はこれから益々重要になってきます。電気関係の仕事に従事することは、社会に対して非常に貢献度が高いと思っています。



## 産業界からのメッセージ 「新会員企業の紹介」

株式会社関口製作所 代表取締役 関口 孝一  
〒124-0025 葛飾区西新小岩 5-15-1 TEL. 03-3692-0357

### 【会社の概要】

弊社は昭和14年の創業以来、主要製品として通信、医療、分析、電力、半導体、建築、車輛等、各装置・製品の精密板金部品・プレス部品、フレーム・筐体などを通して、お客様のご愛顧を賜りお陰様で 80 年を超える歴史を重ねて参りました。

### 【メッセージ】

堅実経営を信条に、お客様、地域の方々、各関連企業、そして社員と共に歩み、豊かな社会作りに参加し、以来、刻々と変わる社会、経済、環境の中で、『顧客が満足する物作りを通じ社会に貢献する』ことを経営理念に、「高品質、短納期、低コスト」の実践で、厚い信頼を頂いております。

これまで「板金・プレス加工」は日本の誇れる製造業の中でも、その優秀な技術力、また充実した環境により、特に高い付加価値を生んで来ました。これは私共にとっても誇りであり、またそれに携わる専門職としての使命感を自覚しながら、これからも力を尽くして参りたいと考えます。近年の産業界におきましても再び多くの製造業が新しい時代の物作りを通じ元気な日本の牽引役を担っております。

これも我々が日頃より感じております日本企業の

「知恵の豊かさ」と「技術の重み」があるからに他なりません。また「かんばん生産方式」の様な手法の普及も大きな要因であるでしょう。しかしそこには「物作りの感動」が普遍的な要素としてあることに違いありません。私共はこれからも、「板金・プレス加工」を通じ価値ある物作りを続けて行きます。そして新しい技術・手法を取り入れ、知識・経験を生かし、IT化・効率化に取組み、高品質、適正価格、そして更なる短納期化へのチャレンジを全力で実行して行きます。

質の価値、時間の価値の高い製品作りでお客様に喜んで頂く、そしてさらに進化する企業を目指して参ります。



## 産業界からのメッセージ 「新会員企業の紹介」

株式会社日之出製作所 代表取締役 篠原 裕一  
〒125-0052 葛飾区柴又 3-21-8 TEL. 03-3607-1843

### 【会社の概要】

当社は、昭和33年個人創業以来、オイルシール及び工業用パッキンを主力にゴム成形加工、樹脂製品、機械加工の設計、製作を自社一環の生産体制のもとで、豊富な経験から技術を開発し、新しいニーズに着実に応えて参りました。

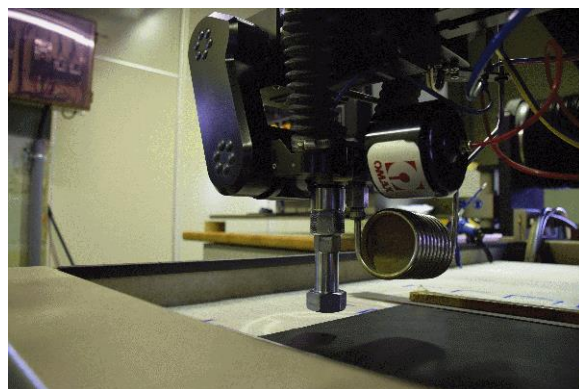
### 【メッセージ】

近年業界は、益々多様化をたどり、適格な対応を必要とされて居ります。今後も当社は生産現場から出る技術と開発力を生かし、徹底した品質管理の元であくまでもユーザーの立場に立って考え、迅速な納入体制、小回りのきくメーカーとして歩み続けて参ります。

当社は試作、量産まで対応できる設備を有しており、試作品については弊社の特色であるシールジェット、ウォータージェット等の他社にない生産設備を活かして金型不要で試作品を生産することが可能

です。従って、ユーザー様のコスト削減や金型製作期間の省略で納期短縮も可能となり、多くのユーザー様からご評価いただいております。

量産品も当社の自社一貫生産を最大限に活かし短納期で対応させていただきます。又、品質、精度につきましても独自の仕上治具、検査設備を用いて日々変化していく様々なニーズにお応えします。



## 産業界からのメッセージ 「新会員企業の紹介」

有限会社光永ビルサービス 代表取締役 大塚 耕一  
〒125-0062 葛飾区青戸 6-4-9 TEL. 03-3838-0341

### 【会社の概要】

- ・ 創立:1971年3月 (52期目 2022.4月現在)
- ・ 主要事業
  - ①ビルメンテナンス業
  - ②ハウスクリーニング業
  - ③クリンリネス基準構築から建物維持管理計画等のコンサルティング

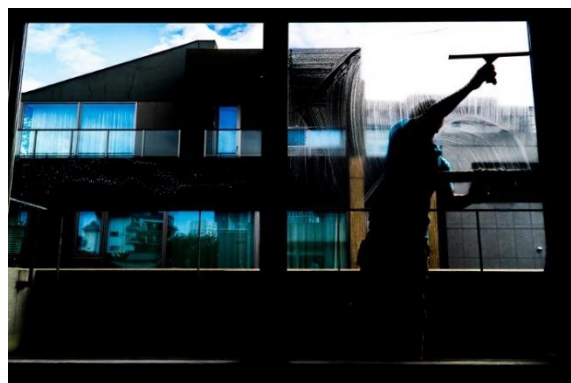
### 【メッセージ】

なぜキレイにするのかを考えたことがありますか？人間のキレイの起源は猿の身づくろいから始まると言われています。その頃は命を守るためにカラダをキレイにしていたのです。その後も衛生や清掃というものは健康を守るために沢山の理論が生み出され今日に至っています。つまりキレイにするということは DNA レベルで刻まれている、健康的に生活するための基本なのです。

では健康を守るためにキレイにすべきものは何でしょうか？弊社ではそれを「環境・カラダ・心」と考えています。そして清掃のプロとして環境をキレイ

にすることで、カラダと心をキレイにし健康に繋がっていく。ただ目の前にある汚れをとるだけでなく、その先にある人々の健康や幸せを守ることこそが我々の仕事なのです。

清掃はとてもやりがいのある仕事です。体力仕事で大変なこともありますし、とても地味な仕事かもしれません。キラキラした目立つ仕事ではないかもしれませんが、しかし人間の生きるための根幹を守ることができる仕事はそう多くはありません。一緒に人の幸せにつながる仕事をしませんか？





## I n f o r m a t i o n

## 令和4年度 産学懇談会

コロナ禍の影響によりオンライン方式で実施してきた産学懇談会を、令和元年11月以来2年8か月ぶりに学校を会場に開催しました。

【第1回】7月8日(金) 都立橘高等学校

生産から流通・販売までを総合的に学ぶ産業科の特色とともに、今年度から本格実施の「伝統工芸教育推進校」としての取組が紹介されました。



【第2回】9月27日(火) 都立府中工業高等学校

授業に熱心に取り組む生徒の様子を拝見した後、学習評価の取組、電気工事士など全校的な資格取得の取組について紹介されました。



【第3回】12月2日(金) 読売理工医療福祉専門学校

放送・メディア系、建築・電気系、医療・福祉系各学科の紹介をいただき、中学校・高等学校と専修学校の連携について懇談する予定です。

これら3回の懇談会については、3月発行の会誌第60号にて報告いたします。

## 令和4年度 作文コンクール

本会主催・東京商工会議所後援「作文コンクール」応募へのご協力ありがとうございました。

今回は、昨年度よりも59作品増の応募数となっており、コロナ禍以前の応募数に回復しました。

( )内は昨年度の実績です。

|        | 応募校     | 応募数       |
|--------|---------|-----------|
| 中学校の部  | 24 (25) | 130 (122) |
| 高等学校の部 | 18 (12) | 129 (90)  |
| 専修学校の部 | 2 (1)   | 13 (1)    |

第一次選考を経て第二次選考委員会を、中学校の部(10月13日)、高等学校・専修学校の部(10月14日)に開催し、入選作品(最優秀賞、優秀賞、佳作)を決定しました。表彰式は12月16日(金)、新型コロナウイルス感染防止策を徹底し、東京商工会議所にて開催する予定です。

なお、入選作品は入選作品集「明日に生きる」に掲載し、会員の皆様に送付いたします。

## 令和4年度

## 東京都産業教育振興会教育功労者表彰

教育功労者表彰は多年にわたり、東京都の産業教育に従事かつ尽力され、多くの功績をあげられた方々を表彰するものです。

今年度は、高等学校・高等専門学校32名、中学校9名、短期大学1名の方々が受賞されました。

表彰式は11月10日(木)全商会館にて開催いたしました。詳しくは3月発行の会誌第60号にて報告いたします。

## 事務局より

令和4年度「会報」第163号をお届けいたします。今年度も、新型コロナウイルス感染症対策により本会の事業も影響を受けましたが、本会事業の在り方など再確認しつつ、会報発行业務もニュース性のある情報を月1回発信する会報電子版と年2回発行する会報との二本立てとしてきました。

今回の会報163号発行に際し、ご協力いただきました皆様と共に、電子版発行にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

○会員の皆様からのご感想、ご意見などをお寄せください。

○都産振の事業等は、ホームページからもご覧になれます。

発行



東京都産業教育振興会

住所

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部

高等学校教育課内

電話

03-5320-6729

ホームページ

<https://www.tosanshin.org/>

印刷

教育庁サポートオフィス

Palette

教育庁サポートオフィス

パレット